

群 教 セ	G01-03
	平 14.209 集

「前橋の詩人たち」の Web ページ教材 の作成と掲示板の活用

詩の内容について理解を深めるために

特別研修員 瀬戸 満 (前橋市立第三中学校)

《研究の概要》

本研究は、選択国語の「前橋の詩人たち」の学習において、生徒が詩の内容について理解を深めるための Web ページ教材を作成した。「前橋の詩人たち」の中学生にふさわしい詩を写真とともに示し、その詩についての解説や詩人の経歴や業績を階層的に閲覧できるようにした。また、ブラウザで見える掲示板を利用し、他校の生徒と詩について考えを交換し合う学習活動を行い、詩の内容について一層の内容理解を図った。

【キーワード：国語 中 選択科目 Web ページ 掲示板 地域教材】

主題設定の理由

前橋市では、中学校国語科の副読本として全生徒に『郷土前橋の詩歌』を配布している。また、市内にある「前橋文学館」への見学を市内全校の1年生が行っており、詩を感じる心と詩情に満ちた郷土を愛する心を培おうとしている。本校でも、これまで選択国語において、課題解決的な学習として「郷土の詩人」を扱ってきた。そこでは、校区内の詩碑巡りをして興味・関心を高め、各自が選んだ詩人について課題を設定し、追究する学習活動を行ってきた。しかし、その学習は、詩人の年譜をまとめ感想を添えたものや自分の気に入った詩をまとめたものなど、情報を集める段階で終了していた。この反省から、生徒が詩の内容について理解を深めていく学習活動を行うことが課題となっている。

詩の内容について理解を深めるためには、詩の描かれている情景や詩の背景にある作者の思い、表現技法などに注意して読むことが必要である。このような学習を生徒一人一人が進めていくためには、郷土の詩人や詩についての情報を得なければならない。これらの情報は、学校図書館には少なく、また頻りに前橋文学館に出かけて調べることもできない現状にある。そこで、その情報を生徒に与えるための手だてとして Web ページが有効なのではないかと考えた。インターネットで用いられている Web ページの特長は、リンク機能によって階層的に情報が提示できる点にある。また、その情報もテキストだけではなく、画像や音声等を扱える点も優れている。これらの Web ページの特性を生かし、作品で描かれている風景、詩碑や詩集などを画像として取り入れたり、また作者の思いを考えるための資料を提示したりする Web ページ教材が作成できれば、生徒は作品をより身近に感じ、詩の内容について理解を深めていくことができると思う。

さらに、詩の内容について理解を一層深めていくためには、他者の考え方に触れ、自分の考えを見つめ直していく学習活動を行うことが有効であると思う。しかし、自分の選んだ詩について考えを交換し合うには、選択国語を履修する生徒は 15 名程度と少なく、クラス内では難しい状況にある。そこで、双方向のコミュニケーションが可能なブラウザで見える掲示板を利用し、詩について他校の生徒とお互いの考えを交換し合えば、共感したり批判したりする学習活動が行え、詩の内容について理解を一層深めることにつながるであろうと考えた。

以上のように考えて、本主題を設定した。

研究のねらい

中学校選択国語の「前橋の詩人たち」の学習において、詩の内容について理解を深めるために Web ページ教材を作成する。さらに、Web ページ教材で学習した後、掲示板を活用し、他校の生徒と詩についての考えを交換し合う学習を行い、詩の内容について理解を一層深める。

研究の見通し

- 1 Web ページ教材の内容として、詩に対する作者の思い、情景や表現技法についての資料を載せた「詩の解説」のページと作者の経歴や業績を載せた「詩人紹介」のページを階層的に提示する。「詩の解説」のページの内容を、生徒が初めにもった感想に対して異なる多くの視点の情報を提示すれば、詩の内容について理解を深めるのに有効であろう。
- 2 詩ごとに一覧表示できるツリー形式の掲示板を活用すれば、詩についての自分の考えと他者の考えを比較しやすくなるであろう。また、自分の考えに対して他者が返信の形で考えを書き込むという学習過程を組めば、自分の考えと対比することで、共感したり新たな発見をしたりして、詩の内容について理解が一層深まるであろう。

研究の内容

1 Webページ教材の概要

(1) 基本的な考え方

ア 詩の内容について理解を深めるために

「詩の内容について理解を深める」とは、詩中の語句や表現の意味がわかり、詩で描かれている情景を想像し、詩の書かれた背景や作者の心情をとらえながら読むことができることとする。そのために、詩は「縦書き」で提示し、詩の情景をイメージさせるために詩とともに写真を背景として取り入れる。また、本文中の難語句はマウスでポイントすると、右フレームページにその意味や解説が出るようにし、難語句による抵抗を取り除き詩を読むことができるようにする。

また、「詩の紹介」のページから、「詩の解説」のページが別画面で表示できるようにし、その詩の書かれた背景や作者の思い、表現技法等をテキストで資料として提示する。その内容は、生徒が初めにもった感想に対して異なる多くの視点の情報を与えるようにする。また、「詩人紹介」のページでは、詩人の経歴や業績を示し、詩の理解を助ける内容にする。

イ 詩の内容について理解を一層深めるために

詩の内容について理解を一層深めるためには、他者の考え方に触れ、自分の考えを見つめ直すことが必要であると考え。そこで、前橋市内の他校の生徒と同じ詩について考えを交換し合う学習を行う。まず、両校生徒全員が、Web ページ教材での学習後にもった自分の考えを掲示板に書き込み、次に同じ詩に対して、返信の形で自分の考えを書き込む学習を実施する。掲示板は詩ごとに一覧表示できるツリー形式のものを利用し、一つの詩について複数の考えが一覧表示できるようにする。

(2) Web ページ教材と掲示板の構成

本教材の構成を図 1 に示す。

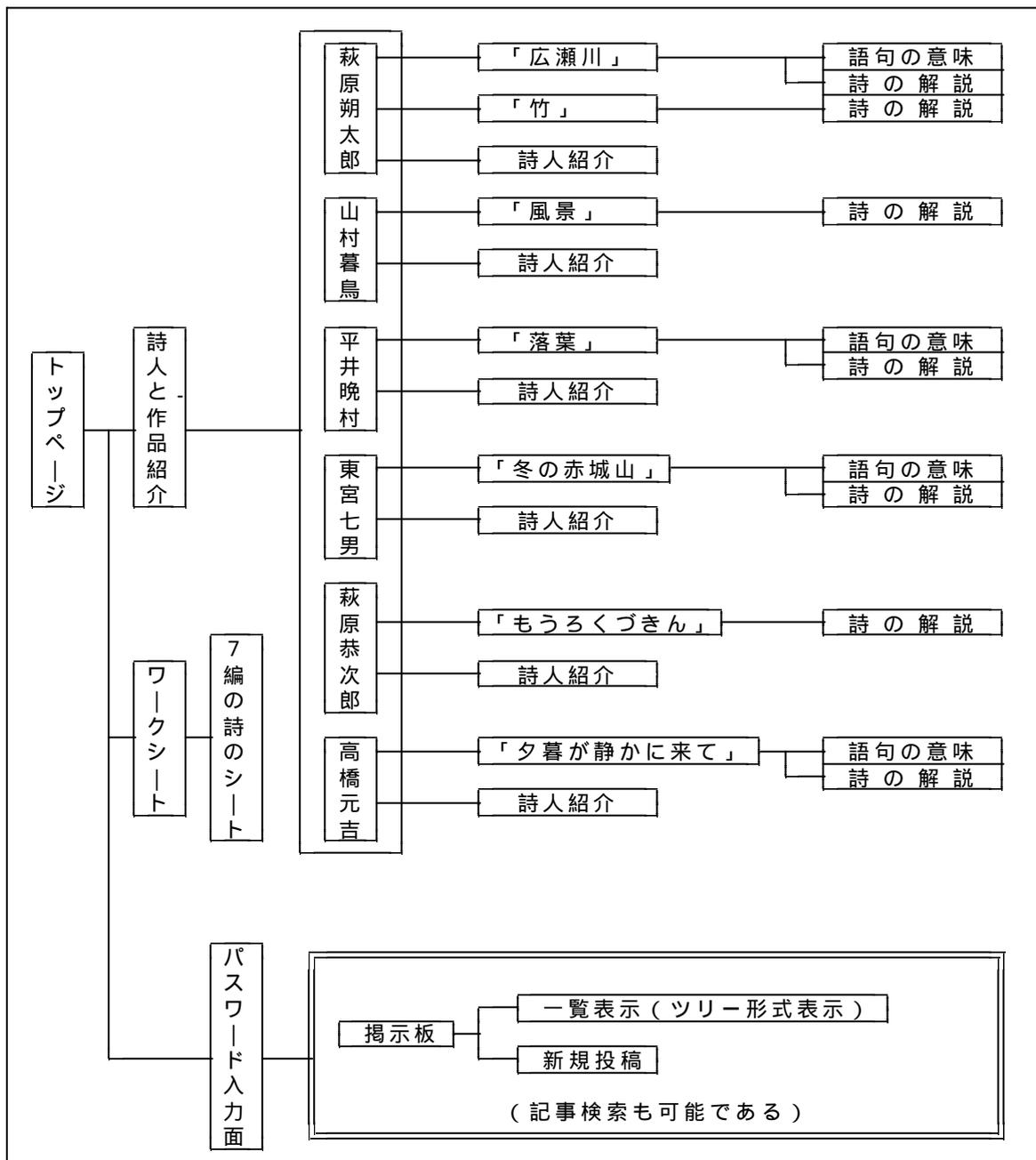


図1 Webページ教材の構成図

2 Webページ教材の内容

(1) トップページ

トップページには、「前橋文学館」前の萩原朔太郎の銅像を写真に撮り、それを画像処理ソフトで加工して載せ、詩の世界への入り口をイメージした。また、項目として、「詩人と作品紹介」、「掲示板」、「ワークシート」の3つを示し、リンクを設定した(図2)。



図2 トップページ

(2) 詩人と作品紹介の選択ページ

「詩人と作品紹介」の選択ページには、萩原朔太郎「広瀬川」と「竹」、山村暮鳥「風景」、平井晩村「落葉」、東宮七男「冬の赤城山」、萩原恭次郎「もうろくづきん」、高橋元吉「夕暮が静かに来て」の7編の詩を示した。作品名をクリックすると「作品紹介」のページへ、顔写真をクリックすると「詩人紹介」のページへリンクを張った(図3)。なお、詩人の顔写真は「前橋文学館」より提供していただいた。



図3 詩人と作品紹介の選択ページ

(3) 作品紹介

「作品紹介」のページはその詩のイメージとなる写真を背景にし、その上に詩を縦書きで載せた。詩の本文中の難語句の意味を理解しながら読むために、その語句をマウスでポイントすると、右フレームページに意味や解説を提示できるようにした(図4)。さらにこの画面から「詩の解説」が別画面で表示できるようにし、一つの詩について階層的に学習が進められるよう工夫した。また、「もうろくづきん」の詩だけは長いので、HTMLの縦書きに変換できるフリーソフト(「テキスト・縦書き HTML コンバータ」著作権は京氏にある)を用いて、縦書きの詩を作成し表示した。ただし、詩の語句上にはリンクが張れないので、詩の終わりに難語句の意味を示した。



図4 「広瀬川」のページ

(4) 詩の解説

「詩の解説」のページでは、その詩の書かれた背景、作者の思いや表現技法についての文章を文献からの引用を交えてテキストで示した。生徒が詩の内容について理解を深めるために、詩に対する初めの考えとは異なる多くの視点の情報を与えるような内容にした(図5)。

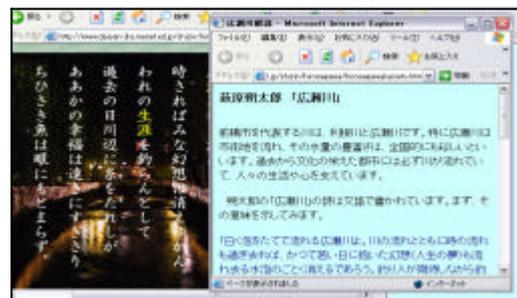


図5 詩の解説のページ(右)

(5) 詩人紹介

「詩人紹介」のページでは、市内にある詩碑や詩集の写真を資料として提示し、詩人を身近な存在としてとらえられるようにした。また詩人の主な経歴について記述し、内容を詩人の考え方や生き方を生徒が感じとれるようなものにした(図6)。



図6 萩原朔太郎の詩人紹介のページ

(6) 掲示板

掲示板は、他校の生徒と詩や詩人についての考えを交換し合うために設置した。掲示板はフリーのCGIプログラムの掲示板(「tree board.cgi」著作権はGenesisにある)を利用した。これはツリー表示形式のできるもので(図7)、それにより一つの詩について、複数の生徒の考えが閲覧しやすくなると考えた。



図7 掲示板



図8 ワークシート

(7) ワークシート

生徒が授業の中で、詩についての自分の考えや感想を書くために、各詩のワークシートを作成した。PDF ファイルとし、印刷して利用できるようにした（図8）。

3 授業実践

(1) 授業実践計画

表1 授業実践計画

対象	自校 前橋市立第三中学校 3年生 15名 相手校 前橋市立第五中学校 3年生 17名
教科等	選択国語3年 題材名「Webページ教材『前橋の詩人たち』で詩の理解を深めよう」
学習目標	Web ページ教材「前橋の詩人たち」で学習したり、掲示板を使って他校の生徒と詩について考えを交換したりして、詩の内容について理解を深める。
期間等	平成14年10月15日～11月14日 指導時間：4時間
準備等	Web ページ教材「前橋の詩人たち」を前橋市立第三中学校のホームページにアップロードした。（10月上旬）

(2) 指導計画 4時間

表2 指導計画

過程	主な学習活動	時間	評価項目（評価方法）
つかむ	前橋の詩人たちの代表詩を7編読み、気に入った詩についての第1次の感想を書く。	1	・ 7編の詩を読み、自分の気に入った詩について、初めの感想を書いている。（感想文）
	「前橋の詩人たち」の Web		・ Web ページの見方を理解し、第

深める	<u>ページ教材を閲覧し、自分の選んだ詩についての感想をもつ。</u> Web ページ学習後の第2次の感想を書く。 <u>掲示板への書き込み方法を知り、第1次掲示板への書き込みを行う。</u>	1	1 次の感想と比較しながら、Web ページを参考にしている。(観察) ・ Web ページでの学習を踏まえ、深まった感想を書いている。(感想文) ・ 掲示板の書き込み方法を理解し、情報モラルに反しない書き方をしている。(観察)
一層深める	<u>相手校(前橋五中3年生)の生徒が書き込んだ掲示板を読み、自分の感想と比較し、第3次の感想を書く。</u> 第2次掲示板への書き込み。	1	・ 相手校の生徒の書き込んだ掲示板の内容を読み、自分の考えと比較した感想を書いている。(感想文)
まとめる	相手校の生徒が書き込んだ掲示板を読む。 学習のまとめ(自己評価)をする。	1	・ 学習の成果や反省について、自己評価している。(事後のアンケート)

注 表中のアンダーラインは、本教材を活用しているところ

(3) 検証計画

表3 検証計画

検証の観点	検証の方法	処理・解釈
詩の内容(情景、作者の心情、表現技法など)について、理解を深めることができる。 詩の内容について、他者の考えに触れ、理解を一層深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> Web ページ教材学習後の掲示板への書き込み内容 相手校の掲示板への書き込みを見た後の書き込み内容 事後のアンケート 授業中の取り組み状況 	<p>掲示板への書き込み内容によって、生徒の考えがどれだけ深まったかを判断する。</p> <p>事後のアンケート結果を数量的に分析する。</p>

4 結果と考察 (ここでのデータは、両校の生徒のものである)

(1) 「詩の内容について、理解を深めることができる」についての検証。

1時間目で、自分の気に入った詩について、第1次の感想を生徒は書いた。それを受け、2時間目に本教材の「前橋の詩人たち」の Web ページを閲覧し、第2次の感想を書き、それを掲示板に書き込んだ。その1次と2次の感想の変化の例を次に数例挙げてみる。

表 4 理解の深まりの例

作品名	第 1 次の感想	Web ページ閲覧後の感想
萩原朔太郎 「広瀬川」	「幸福は遠きにすぎさり」 ていうのがすごい切ないと思 った。	「夢や幸福も見つからないとい うとても悲しい詩なんだと思 った。朔太郎は詩人という 職業をわかってもらえなくて、 辛い思いをしていたそうなの で、それも関係あるのかなと 思った。」(作者の境遇をとら えた例)
萩原朔太郎 「竹」	竹が生きている様子を自分 自身にたとえ、自分も力強 く生きていこうと思ったの だろう。	この詩は口語自由詩で、「生え」 という繰り返しが多用され、 各行は連用形で終わっている。 独特の音韻効果とは何だろ う。(表現技法をとらえた例)
山村暮鳥 「風景」	「いちめんのなのはな」と たくさん反復を使って印象 を強調していて、何が言 いたいが一度読んだだけで 分かります。	「この詩は単なる『風景』を うたっただけでなく、山村暮 鳥自身の内面を映す象徴詩 という事です。『やめるはひ るのつき』という言葉を使う ことによって詩人の悩んでいる 内面がわかる」(作者の心情 をとらえた例)
東宮七男 「冬の赤城山」	作者が言うように見た目は 良くなくても堂々と生きて いる赤城山はすばらしい。 作者の赤城山が好きだとい う気持ちがよくわかる。	「作者にとって赤城山は幼少 のころから親しんだだけで はなく、先祖代々生活と強く 結びついた存在であり、この 詩では作者の赤城山に対する 親しみが込められ、擬人化 して描かれている。」(作者 の境遇をとらえた例)

注 :アンダーライン部は生徒がWebページを参考にした箇所

表 4 の山村暮鳥「風景」の感想を書いた生徒は、Web ページ閲覧時に、「作品紹介」のページの背景写真を見て、「きれい」と言っており、第 1 次の感想の通り、単に美しい菜の花畑を想像していた。そこで、「詩の解説」のページの「やめるはひるのつき」についての解説の箇所をよく読むように支援したところ、この詩が単なる風景詩ではなく、作者の内面をうたった詩であることに気づき、上記のような感想をもつことができた。このように、70%の生徒は Web ページ教材の「詩の解説」や「詩人紹介」のページを見て、それらをもとにしながら初めの感想に比べ、深まった感想をもつことができ、詩の内容について理解が深まったと言える。ただし、残り 30%の生徒は、詩の直観的な印象にとどまっていたり、一つの語句についての疑問を挙げたりした程度で、詩の理解が深まった感想をもつまでには至っていなかった。

また、事後のアンケートから、Web ページを見て、詩の理解を深めるのに役立ったと答えた生徒は 89%を占め(図 9)、詩中の語句や表現技法を理解したり、詩についての情景や作者の思いを考えたりすることができたと言える。さらに、Web ページのどのページが詩の理解に役立ったかを尋ねたところ、「作品紹介」のページ 37%、「詩の解説」のページ 85%、「詩人紹介」のページ 33%で(図 10)、特に「詩の解説」のページが有効であったと言える。

(2) 「詩の内容について、他者の考えに触れ、理解を一層深めることができる」についての検証。

事後のアンケートより、「掲示板での交換学習によって、他者の考えに触れ、詩の理解が深まったか」という質問では81%の生徒が「深まった」としており(図11) 生徒は意識の上では、他者の考えに触れることで、詩の理解が深まったと感じている。また、掲示板を活用して考えを交換し合う学習を行っての感想を聞いたところ、「五中の皆さんの詩への考え、意見を知ることができて良かった。自分の考えを改めたり、深くすることができた」「自分の考えや相手の考えを掲示板に書くことで、また新しい考えが見つかるので良かった」など、この学習活動が楽しく、かつ詩の理解を深めるのに役立ったとした生徒が多かった。

掲示板への書き込みは各校2回ずつ行った。第1次の書き込みに対して、返信するという形で実施した。生徒の一例を挙げてみる(図12,13)

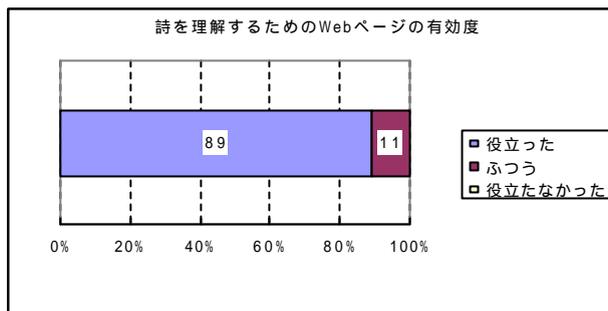


図9 Webページの参考度

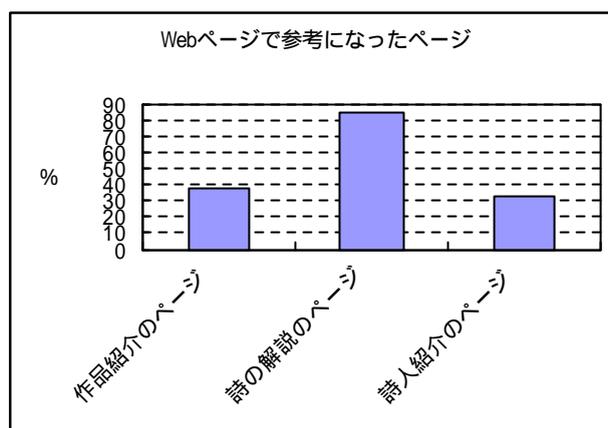


図10 参考にしたページ

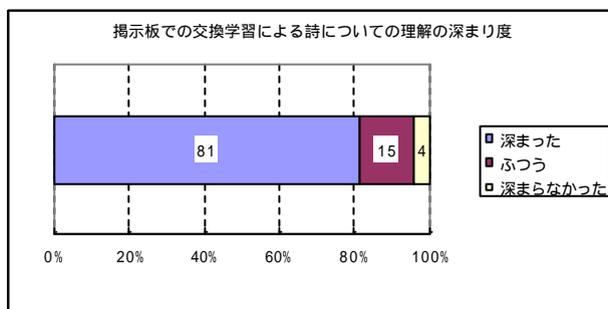


図11 掲示板での交換学習の効果

<p>【萩原朔太郎「広瀬川」】夢や幸福も見つからないというとても悲しい詩なんだと思った。</p>	返信	私も悲しさ、寂しさを感じました。
	返信	朔太郎ってかわいそうですね。わたしはこれから、広瀬川の見方が変わってしまうと思います。

図12 掲示板による考えの交換例

<p>【山村暮鳥「風景」】 この詩は単なる『風景』をうたっただけでなく、山村暮鳥自身の内面を映す象徴詩ということです。</p>	<p>返信</p>	<p>この感想を読み、今まで考えていた詩に対する自分なりの考えが変わりました。今までは単なるきれいな風景をうたっている詩かと思っていましたが、深い意味が込められているんですね。どんな悩みかはわかりませんが、深い悩みを抱えていたのかもしれないですね。</p>
---	-----------	--

図13 掲示板による考えの交換例

図12のように、相手の考えに共感し、それを認めて、考えを述べた者が70%とほとんどであった。また、図13のように、他者の考え方に触れ、新たな発見をし、自分の考えを述べることができた生徒は15%であった。また、残り15%の者は一つの語句についてのやりとりをしているだけであった。

以上のように、事後のアンケートや感想からは、ほとんどの生徒は、他者の考え方に触れ、詩の理解が深まったと感じている。しかし、掲示板への書き込み内容を分析してみると、7割の生徒は他者の考えに触れ、それに共感している段階でとどまっており、ねらいとした新たな発見をし、詩について理解を一層深める段階までには至らなかったと言える。

研究のまとめと今後の課題

本研究での成果は次の通りである。

「前橋の詩人たち」のWebページ教材で、「詩の解説」や「詩人紹介」のページを階層的に提示した。特に「詩の解説」のページを読むことにより、ほとんどの生徒が作者の思い、情景や表現技法について深まった感想をもつことができ、詩の内容について理解を深めることができた。

Webページ教材学習後、掲示板を活用して、詩についての考えを交換し合う学習を実施した。その結果、ほとんどの生徒が他者の考えに触れ、共感した考えを述べることができた。



図14 授業の様子

また、今後の課題としては次のようなことが挙げられる。

授業での観察から、Webページ教材を閲覧して学習している際に参考にした「詩の解説」のページはテキストのみで示したので、興味のない生徒は十分に読まない様子が見られた。今後は画像や表記に工夫をするなどしていく必要がある。また、今回のWebページ教材に載せた詩は7編と少なかったため、生徒がもっと多くの中から好きな詩を選択できるように掲載する詩の数を増やしていくことにも取り組んでいきたい。

掲示板を活用しての考えを交換し合う学習では、生徒は楽しく取り組んでおり、生徒の意識の上では、ほとんどが自分の詩についての理解が深まったと答えた。しかし、掲示板へ書き込まれた内容を分析したところ、相手の考えに共感し、それを認め合っている感想がほとんどであった。自分とは異なる考えによって、さらに新たな発見をして自分の考えを見つめ直すまでには達していなかった。今回は時間の関係上、掲示板による交換学習が2回と少な

かったので、3回、4回と回数を増やせば、他者の考えによって、新たな視点で詩をとらえ直し、理解を一層深めていけるだろうと考える。また、今後 Web ページ教材の中に、考えを交換する際の観点を明確に示すガイドのページを設定したり、授業の場面で教師が個に応じた支援を工夫したりしていくことも必要である。

参考・引用文献

- ・平成 13 年度 特別研修員 研究報告書 第 203 集 群馬県総合教育センター（2002）
- ・『郷土前橋の詩歌』 前橋市教育委員会（2002）
- ・文部省 『中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月）解説 国語編』 ぎょうせい（1999）